

平成30年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版:様式】

津山市立北小学校

今年度の指導の重点		津山っ子の学びを高める”3つの提案” 6つの取組	
<p>やさしく かしこく たくましい 北小の子の育成 ～どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を どの子もかがやく毎日を～ (児童像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある言動ができる子ども ・伝え合い、学び合う子ども ・夢や目標に向かって、最後までやりぬく子ども 		<p>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している</p>	<p>当初 [B] 年度末 [] 当初 [B] 年度末 []</p>

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかつた(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかつた(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>○国語A問題:県平均、全国平均よりも低い。国語B問題:県平均、全国平均よりもやや低い。</p> <p>○算数A問題:県平均並み、全国平均よりもやや低い。算数B問題:県平均、全国平均よりも低い。しかし昨年度と比べると上昇傾向にある。</p> <p>○国語Aの主語述語をとらえる問題、算数Aの除法で表すことができる二つの数量関係、式を分配法則を使い変形する問題に大きな課題があった。</p> <p>○国語 3年生は県平均よりもやや高い。4、5年は低い。</p> <p>○算数 全体的に県平均よりも低い。</p> <p>4、5年生は昨年度と比較すると、国語・算数とも県平均には届かなかつたが、改善傾向にある。</p> <p>○3年生の国語では、「話すこと」「聞くこと」、算数では、「図形」「かけ算」「10000までの数・分数」に課題が見られる。</p> <p>○4年生の国語では、「作文」「物語、説明文の読み取り」、算数では、「小数・分数」の基礎、「かけ算・わり算」の応用に課題が見られる。</p> <p>○5年生の国語では、「作文」、算数では「面積」「億と兆、がい数の表し方」「図形」に課題が見られる。</p> <p>↓</p> <p>【目標】</p> <p>○書く力、読み取る力を高い児童</p> <p>○文章や数式の意味を読み取れ、活用できる児童</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○自己肯定感は全国・県平均に比べ高い傾向にある。</p> <p>○毎日同じ時刻に寝ているが、全国・県平均に比べ大きく低くなっている、運動するように同じ時刻に起きるも低い傾向にある。</p> <p>○テレビゲームやテレビを2時間以上見たりしている児童は5年生では県平均より低いが、6年生は国・県平均より高い。</p> <p>○あいさつは、自分からよくしていると答えた児童は国・県平均より高い。</p> <p>○宿題をしているかについては、全国・県平均より低い傾向にある。</p> <p>○読書の習慣が身にこなしている児童といい児童がいる。</p> <p>○学習時間は、全体的に全国・県平均より低い。</p> <p>○算数の授業の内容がよくわかると答えた児童の割合は、5年生は国・全国平均よりも高いが、6年生は低い。</p> <p>○理科の授業がよくわかると答えた児童の割合は、全国・県平均並みである。</p> <p>↓</p> <p>【目標】</p> <p>○家庭学習の習慣を身につける</p> <p>○家庭学習で宿題以外の学習時間を増やす</p> <p>○授業で「わかった」といえる児童</p>

成 果		課 題	
<p>・様々な課題がある児童に関しケース会議を開催し、職員同士の共通理解や具体的な対策を練り、実施した。</p> <p>・授業のユニバーサルデザイン化に校内研究で取り組み、全員が「わかった」と言える授業を目指し、個別の児童の課題を把握しながら授業改善を行つた。</p> <p>↓</p> <p>○その結果、落ち着いた学級の雰囲気で学習を行うことができたことが、算数が5年の時に比べ3.4ポイント上昇の結果につながつた。</p> <p>○あいさつ運動に児童会を中心取り組んだことが、児童のあいさつを自分からよくできているという意識の向上へと繋がつた。</p>		<p>○全体的に見ると読み取る力、書く力が弱い。</p> <p>○宿題の提出が十分できていない傾向がある。</p> <p>○宿題以外の家庭学習に取り組んでいる児童が少ない。</p> <p>○スマート・テレビの視聴時間が長く、逆に読書の時間が短い傾向がある。</p>	

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
書く力を高める	学年末	自分なりの考え方や振り返りを、90% (校内で決めた基準の)の児童が書けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で自分の意見、ふりかえりを書く機会を増やす(その中で、短い文で、主語述語をはっきりさせ、語句間の関係を意識した文章指導を行う。) ・学校全体でふりかえりの仕方各学年で統一して提示する。 ・論理トレーニングプリントの活用。 					
基礎的な内容を定着させる	学年末	県・全国学テで低位の成績であった児童の成績を20%以上上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修において授業のユニバーサル・デザイン化に取り組み、個別の児童の実態把握を元にした授業中の発問・指示等の工夫・改善。 ・学習に課題のある児童を明らかにし、その児童に対応した取り出し指導・TT指導の体制の構築。 					
家庭学習の定着と充実	学年末	全員が家庭学習を提出できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習サポート事業の活用 ・学習面のつまづきの把握による教育支援部を中心とした対策の実施および評価。 ・専科による休み時間等を使用しての、宿題支援。 					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかつた(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかつた(30%未満)」

小中連携の取組		保護者・地域へ理解・協力を求めるこ	
<p>・鶴山中ブロック連携による合同研修会の開催による研修テーマの統一および交流。(授業のユニバーサル・デザイン化)</p> <p>・ノーメディア・チェックを各校で共通して実施。</p> <p>・中学校の先生による出前授業。</p> <p>・英語担当による英語教育の統一。</p> <p>・小中による児童・生徒の情報の共有。</p>		<p>○家庭内の生活リズムの確立</p> <p>○家庭学習の取り組む時間の確保</p> <p>○ゲーム、スマート、テレビ視聴の家庭内のルール確立</p> <p>○北小ノーメディアードーを通しての親子でふれあう時間を設定</p>	